

令和6年度のCSW実践について



仙台市社会福祉協議会
地域福祉活動計画
応援キャラクター aiちゃん

令和7年3月10日

仙台市社会福祉協議会 地域福祉課



仙台市社協における相談員・・・CSW

配置場所 市社会福祉協議会
各区・支部事務所

役割

個別の困りごとについて様々な社会資源を結び付けながら相談対応するとともに、
地域住民とその課題の共通性や地域での必要性などに着目し、地域づくりに向けた支援を行います。

(1) 身近な地域での相談支援
(2) 地域福祉活動支援
(3) ネットワーク形成

職員数255名(R6.4.1)の有資格者
社会福祉士70、精神保健福祉士12、
介護福祉士42、保健師4、看護師19、
保育士8、PT2、OT2、ケアマネ44、
ヘルパー・介護職員初任者研修25 など
*1人で複数の資格を有する場合、それぞれの資格にカウントしています。



仙台市社協におけるCSWの機能

生活支援・介護予防の 体制整備に向けたコーディネート

(第1層生活支援コーディネーターの機能)

- 地域包括支援センターとの連携・協働による地域づくり支援
- 関係機関のネットワーク形成

機能1

機能2

機能3

機能4

個別支援

(相談支援包括化推進員の機能)

- 個別の困りごとの相談対応
- 民生委員児童委員や福祉委員等の地域活動者の相談対応やサポート
- 地域活動者と専門機関のつなぎ など

地域活動支援

- 地域活動に関する相談対応
- 地区社協、町内会等が行う見守り・支え合い活動の支援など

ボランティア コーディネート

- ボランティアマッチング
- NPO・ボランティア団体活動支援
- 企業や大学の社会貢献活動支援
- 福祉学習 など



CSWの支援の流れ

【地域活動に関すること】

困りごとや活動への想いをお聞きします。また地域の会合や行事にお伺いする中で、地域課題把握に努めます。

相談

関係者から話を聞いたり、活動の様子を確認したりして、現在の状況について理解を深め、住民の皆さんと一緒に課題を整理・共有します。

関係性づくり
課題の
整理・共有



課題の共通性や活動の必要性に着目！
「同じ課題があり困っている方が他にもいるかもしれない…」

関係者が集い話し合う場づくりを支援します。アイデアを出し合う話し合いをお手伝いし、利用できそうな制度や事例などの情報を提供します。

支援方法
の検討

地域の活動、制度、関係機関などを組み合わせながら、地域の実情に合った支援の仕組みを一緒に考えます。具体的な取り組みを形にするお手伝いもします。

支援の
仕組みづくり

【個別の困りごとに関すること】

困っている方やその方を心配している方から、困りごとをお聞きします。

さらに詳しい話を聞くなどして情報を把握し、何が課題となっているかを一緒に整理・共有します。

他の支援機関や民生委員児童委員、地区社協の活動と連携しながら、個別の課題解決のための支援方法を検討し、支援に取り組みます。



CSWの活動状況

【延べ相談件数】 6,276件 令和6年4月～令和7年1月末まで

【主な相談者】

地区社会福祉協議会、行政、地域包括支援センター、
本人・家族、町内会、民生委員児童委員、NPO・ボランティア団体、
障害者支援機関、自立相談支援機関など

【主な相談内容】

<地域活動に関する相談>

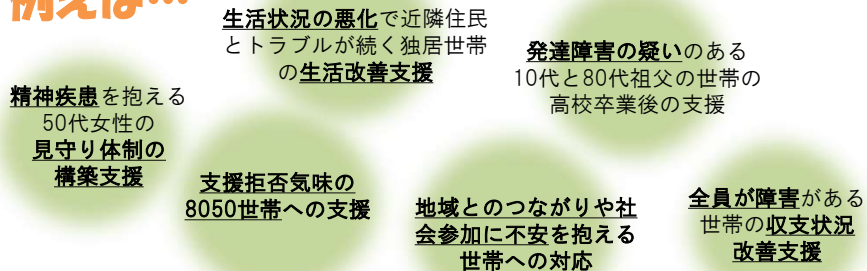
活動資金・助成金、人材育成・研修企画、サロン活動、団体の運営、
連携・活動展開、情報発信・広報など

<個別の相談>

経済的困窮・貸付・就労や住まい・多重債務、社会参加やボラン
ティア、近隣トラブル、ゴミ屋敷、病気やケガ、身体機能低下など



例えば…



- ・ 公的支援と地域の福祉活動等との連動が必要なケース。
- ・ まずは、適切な支援プランを考えるための丁寧なアセスメントや課題の解きほぐしが必要なケース。
- ・ 幅広い関係機関・団体等が関わっている（関わった方が良いと思われる）ケース。
- ・ 様々な世代によって構成される世帯でそれぞれが課題を抱えているケース。
- ・ 関係機関や関係団体等との情報共有が課題となっているケース。
- ・ 制度の狭間にあるケース。
- ・ 支援が必要だけれども、当該世帯が支援拒否しているケース。
- ・ 今は大丈夫だけど、将来が不安なケース（早期のニーズ発見）。
- ・ 支援機関に結び付きにくく地域活動者が気にかけているケース などなど。。。

複雑化・複合化した支援ニーズがある世帯について

支援関係機関等からつながれた、単独の支援機関では対応が難しい複雑化・複合化した支援ニーズがある世帯へ

必要な支援を提供するため「つながる会議」を活用し、それぞれの支援関係機関が持つ情報を共有しながら、

役割分担や支援の目標、方向性を整理し、地域資源の活用も含めた幅広い支援を検討します。



つながる会議とは

社会福祉法に基づき多機関協働事業を担うCSWが開催する「重層的支援会議」を「つながる会議」と総称しています。

高齢、障害、児童など、それぞれの種別にとらわれず、分野横断的に支援検討できる場になっています。



コロナ禍後のCSWは..

	地域支援
令和6年度	4,321件
令和5年度	3,604件

※各年度4月～1月末までの延べ件数

コロナ禍後、地域福祉活動が再開しつつあり、今までの活動の見直しや、新たな活動に取り組んだりする地区が増えてきたことによる相談支援の増加。

地域に出かけること(アウトリーチ)が多かった

地区社協の会議や研修会、サロンや様々な打ち合わせ、民児協定例会や地域包括圏域会議への出席など

4,240件 ※ 令和6年4月～令和7年1月末までの延べ件数



高齢者の社会参加や 地域の支え合い体制づくりを 推進するため…

- ▷ 区域ごと、保健福祉センター及び地域包括支援センターと活動状況の共有や地域へのアプローチ方法などについて、意見交換等実施
- ▷ 各地域包括支援センターと連携を密にし、都度、情報提供や相談に応じ、一つの地域包括支援センターで把握した情報等を他地域へも展開
- ▷ 地域包括支援センター、地区社協、町内会、民生委員児童委員等の地域活動者と連携し、地域の特性に合わせた取り組みなどを行っています。



これからのCSW実践に向けて

- ▶ 多様な相談への対応
- ▶ 相談支援のスキルアップ
- ▶ 4つの機能のチームによるアプローチ
- ▶ 点から面をみる視点
- ▶ 他分野との連携、ネットワークの構築



地域のちょっとした困りごとなどありましたら、
仙台市社協のCSWにご相談ください。



ちいきの



そうだんは



わたしたちに

